



令和7年1月28日

南相馬市議会議長

会派名 志政会
代表者氏名 岡崎 義典



調査研究報告書

1 期間

令和7年1月28日（火）

2 参加者

① 岡崎 義典 ② 鈴木 昌一
③ _____ ④ _____
⑤ _____ ⑥ _____

3 旅行先及び調査研究内容 別紙のとおり

別紙

調査研究内容

月日	令和7年1月28日(火)
旅行先	福島県双葉郡大熊町
調査研究事項	学び舎ゆめの森およびCREVA おおくまの状況調査について
〔内容〕 2023年4月に開校した「大熊町立学び舎ゆめの森」を視察しました。	
当初一般の視察者と一緒の説明を受けるはずでしたが、ご配慮をいただき設計段階からしっかりと関わり、学校立ち上げに尽力した増子副校長から詳細な説明を受けることができました。	
ゆめの森は全国でも珍しい、認定こども園と義務教育学校の子どもが共に学ぶところです。現在0歳から15歳まで72人が在籍しており、その8割は教育移住によるもの。ただ、集団生活があまり得意ではない子や、不登校になった子なども多いとのこと。	
原発事故によって受けた大きなマイナスを覆すには普通の学校ではダメだと、子どもたちの可能性を最大限伸ばすために細部に渡りこだわり抜いた建物と、自主性を尊重したカリキュラムになっています。	
震災前の大熊町は読書のまちであったことから、本には非常にこだわり現在2万冊の書籍に囲まれています。子どもたちは自分たちの教室を持たず、授業の度にどこで勉強するかみんなで決めるそうです。そして、子どもたちが自ら判断できるまで根気良く待つてあげることで、自ら興味のあることを選んで自ら学ぶようになっていくそうです。	
ここを卒業した彼らが、どのように社会に羽ばたいていくのか見てみたいなと思いました。	
午後からは、令和7年3月15日にオープンする産業交流施設「CREVA おおくま」を視察しました。貸しオフィスや多目的ホール、コワーキングスペース等の部屋は完成していましたが、施設パンフレットも未完成で現時点では入居は半分もありませんでした。隣接する商業施設「クマSUNテラス」、JR大野駅、新設される福島県立医科大学附属病院と今後が期待されます。	
同じ原発事故被災自治体として、双葉郡の動向を引き続き注視したいと思います。	



学び舎 ゆめの森
Manabiya Yumenomori

『わたし』がはじまる場所 ～ 大熊町立 学び舎 ゆめの森 ～

0歳からのシームレスな学び舎 義務教育学校・認定こども園

2025年 1月28日



ステートメント

ゆめを見つける
ゆめを分かち合う
ゆめを育てる

自分の「好き」を見つけて
時間をかけてじっくりと向き合える。

学校には家族のような
仲間がいる、先生がいる。

失敗を責めることなく互いを認め合い、

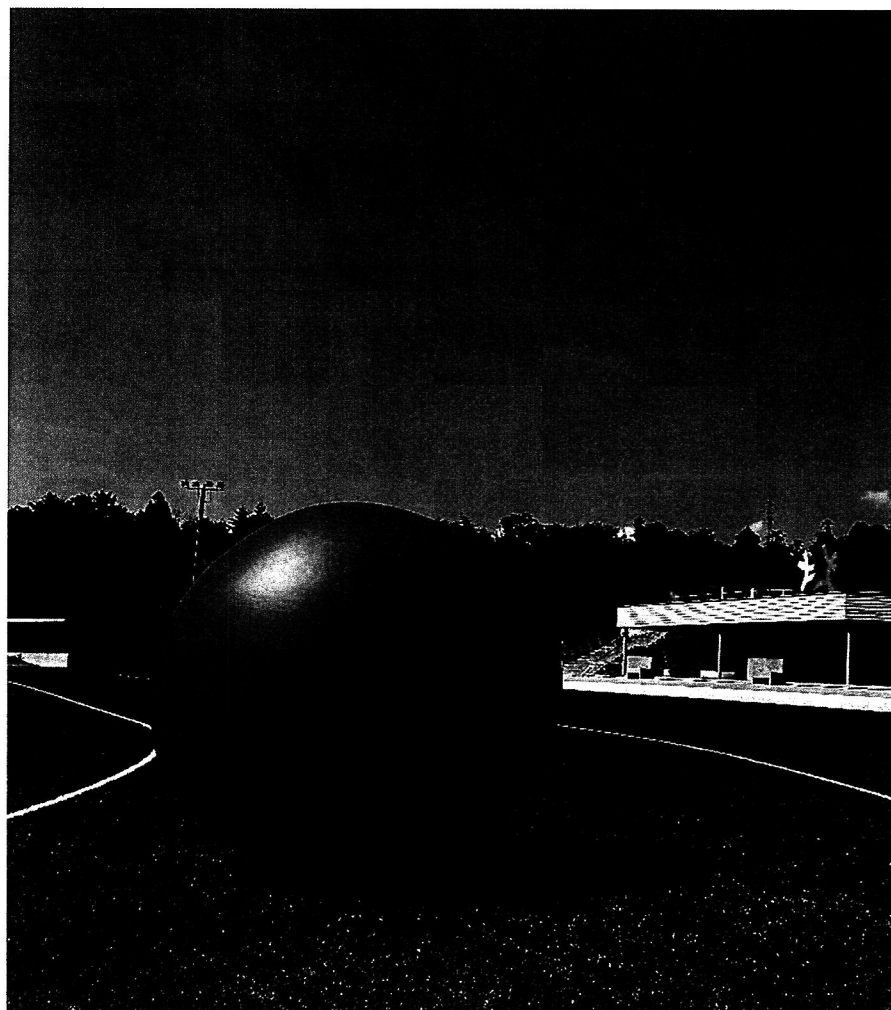
小さな成功の喜びを分かち合える。

そんな幸せな子ども時代を
過ごしてもらいたい。

遊びの中から多くを学び、
学びの中にも遊び心を忘れず、

自分らしい未来を切り拓く力。

学び舎ゆめの森は、公教育の可能性を信じて
子どもたち一人ひとりが輝ける
夢の学校づくりにチャレンジします。



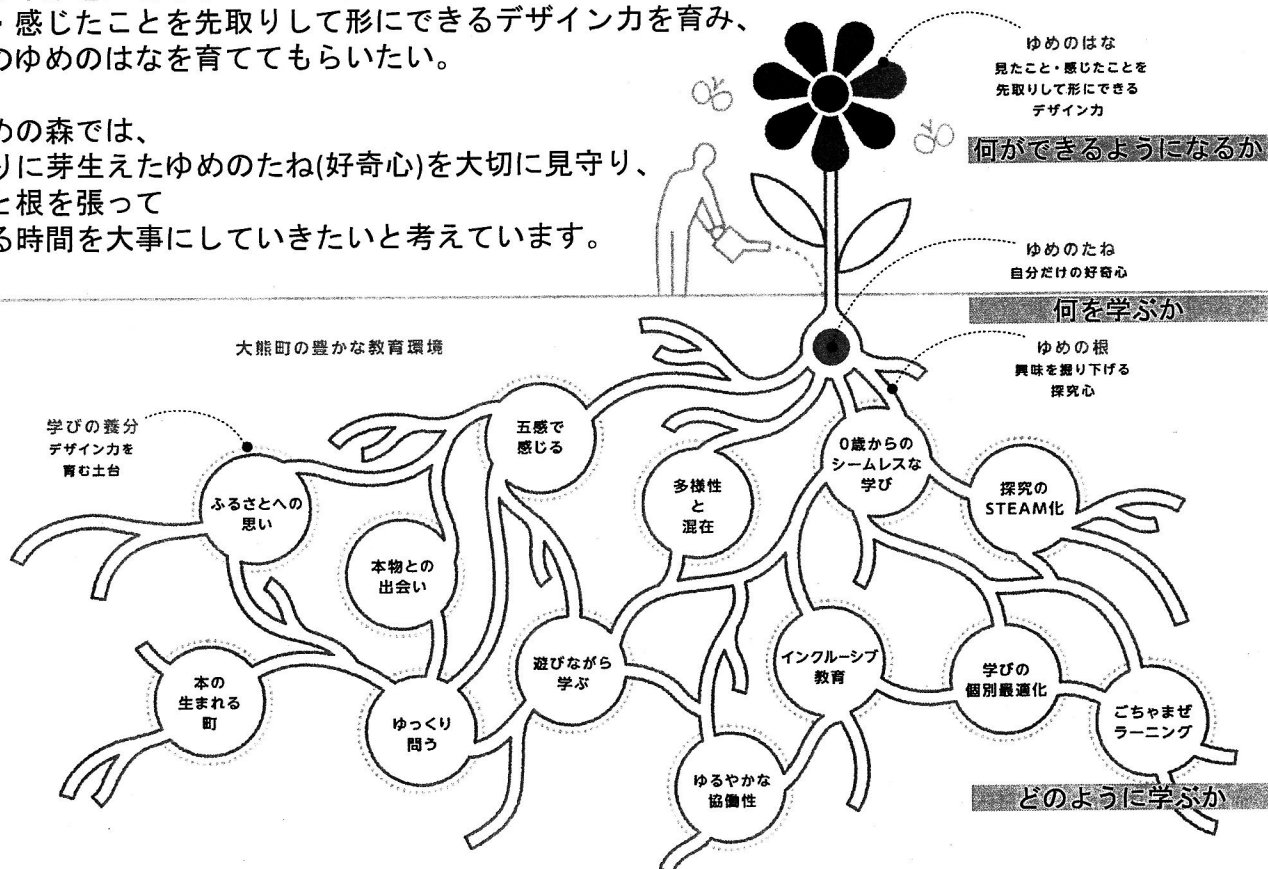
わたしたちの願い



学び舎 ゆめの森
Manabiya Yumenomori

これからの未来を生きる子どもたちには、
見たこと・感じたことを先取りして形にできるデザイン力を育み、
自分だけのゆめのはなを育ててもらいたい。

学び舎ゆめの森では、
一人ひとりに芽生えたゆめのたね(好奇心)を大切に見守り、
じっくりと根を張って
探究できる時間を大事にしていきたいと考えています。



3

大熊町立学び舎ゆめの森 ビジョン・バリュー・ミッション



学び舎 ゆめの森
Manabiya Yumenomori

○ゆめの森の「ビジョン」

「わたし」を大事にし、

「あなた」を大事にし、

みんなで未来を紡ぎ出す。

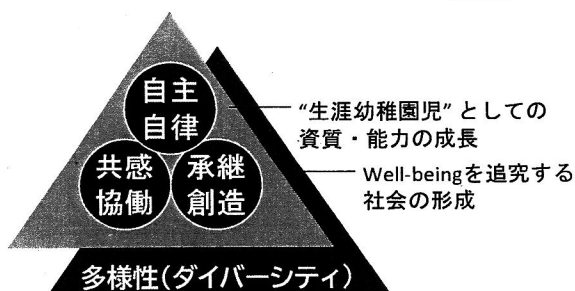
震災・原発事故に直面し翻弄された経験から価値観・学力観を転換。
唯一無二の存在であるひとり一人の「自由」の実現を追究していく。

震災後、多くの分断・対立に直面するとともに、多くのあたたかい
支援に支えられた大熊から、もっとも優しい社会を創り出していく。

自らが主人公となり理想とする未来を描き、他者とともに未来を創
造する、学びと持続可能な地域実現の相乗効果を創出していく。

○ゆめの森で大切にしていく「バリュー」

(価値観)



「自主自律」「共感協働」「承継創造」の価値
観を大切にし、子どもたちの資質・能力の成長
に繋げていくとともに、その価値観を具現化し
た「多様性」を尊重しWell-beingを追究する市民
社会の形成に繋げていく。

○ゆめの森の「ミッション」

(ビジョンを実現するために行う施策・事業方針)

私たちは、

子どもたちを年齢や資質能力で画一化したり
標準化したりしない「ごちゃまぜラーニング」
の環境を作り、

何かを教えすぎたり与えすぎたりせず、個が
「主体的に自らの学びをマネジメント」し、

それぞれが教え合い・学び合い・共生する
「インクルーシブな学びのコミュニティ」を形成し、

かけがえのないひとりひとりの子供たちが
「好奇心を発揮し、熱中し没頭していく」
学びと遊びが加速していく環境

をデザインしています。

4

大熊町立学び舎ゆめの森（義務教育学校・認定こども園）概要



学び舎 ゆめの森
Manabiya Yumenomori

○ゆめの森のあゆみ

2011年

会津若松市に園・学校が避難
同地で12年間教育活動を展開

2022年

学び舎ゆめの森としてスタート
（義務教育学校）

2023年

大熊町に帰還し学校再開
同時に認定こども園を開園
2学期より新校舎へ移転

- ✓ 2011年3月12日早朝の避難指示により全町避難。
- ✓ 町内の園・学校は震災後に約100km離れた会津若松市にて移転開講。
- ✓ 同地で12年間教育活動を展開し2023年大熊町に帰還。
- ✓ 2023年4月、園児児童生徒数26名でスタート。町帰還前の9名(2023年3月)からの大幅増。2023年度末で41名在籍。今後も増加が見込まれる。

○園児・児童生徒数 2025年1月8日現在

園	0歳	1歳	2歳	年少	年中	年長				計	合計
	6	4	4	6	4	4				28	
学校	1年	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	計	
	5	7	5	5	6	7	6	2	1	44	

帰還や教育移住により、昨年度末より31名の子どもたちが新入・転入してきている。
一方で、2024年度大熊町就学者総数は1,191名（就学前317 小学校580 中学校294）と区域外就学が多数。

5

特色ある学び：0歳からのシームレスな学び



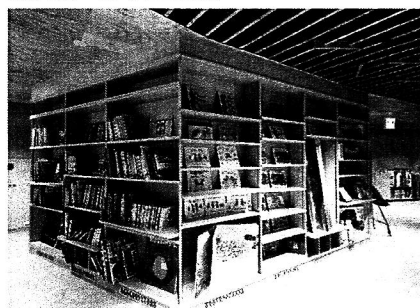
学び舎 ゆめの森
Manabiya Yumenomori

認定こども園と義務教育学校の子供たちが共に学ぶ環境を生かした
シームレスな学びを展開。

- ・ 幼児期の「あそび（内発的関心・問いからの没頭）」の力を
伸ばし、学校の「学び」も内発的な「探究」へと転換
- ・ 社会情動スキルの基盤を形作る幼児期から青年期まで一貫した
理念とカリキュラム
- ・ 0歳からのかけがえのない個が集い、共感・協働し、多様性を力に変える

英国の4歳児
73/day

環境（時空間）



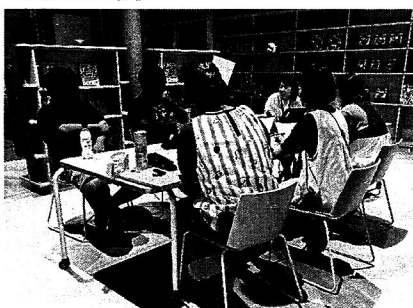
多様な年齢の子ども達の自然な関わりを引き出す意図的な環境をデザイン。

園児・児童生徒の交流



共同行事や、異文化共生力を自然と育むALT参画の遊び、季節の遊びなど。

教員連携



保育と授業の相互乗り入れにより、年齢を超え連続性のある遊びと学びを創造。

6

特色ある学び：学びのマネジメント

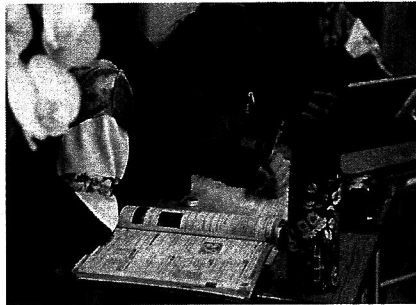


学び舎 ゆめの森
Manabiya Yumenomori

ICTを徹底的に活用した個別最適な学びにより、子どもたち一人一人が自分の学びをデザインし、好きなことに夢中になれる授業を展開。

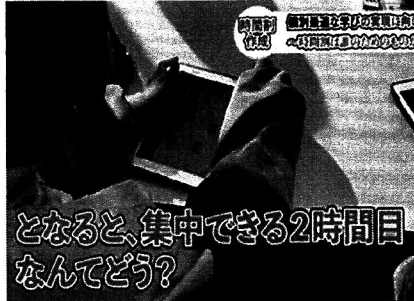
- ・ひとりのタブレットで、AI型教材を活用し、知識習得の時間を大幅に圧縮し、探究を深化させていく深い学びを実現。
- ・時間割を自ら組み立て得意を伸ばしたり苦手に向き合い、学びの自己マネジメントの力を育成。長期休業（夏休み等）の宿題も自ら設定。

学習者中心の学び



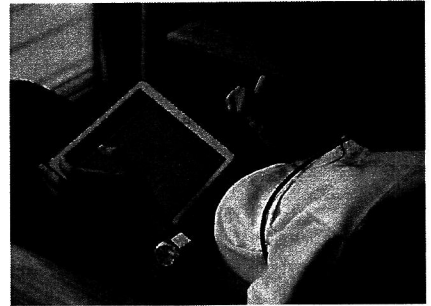
それぞれの習熟度に応じた学習環境をデザインし、主体的な学びを引き出していく。

時間割は子どもたちのもの



予定、人間関係（教員空き時間、仲間）、学習内容（伸ばしたい／補いたい）のマネジメント力を育成。

レベルアップの時間



それぞれが自由に使える「レベルアップの時間」得意を伸ばしたり苦手を補う。

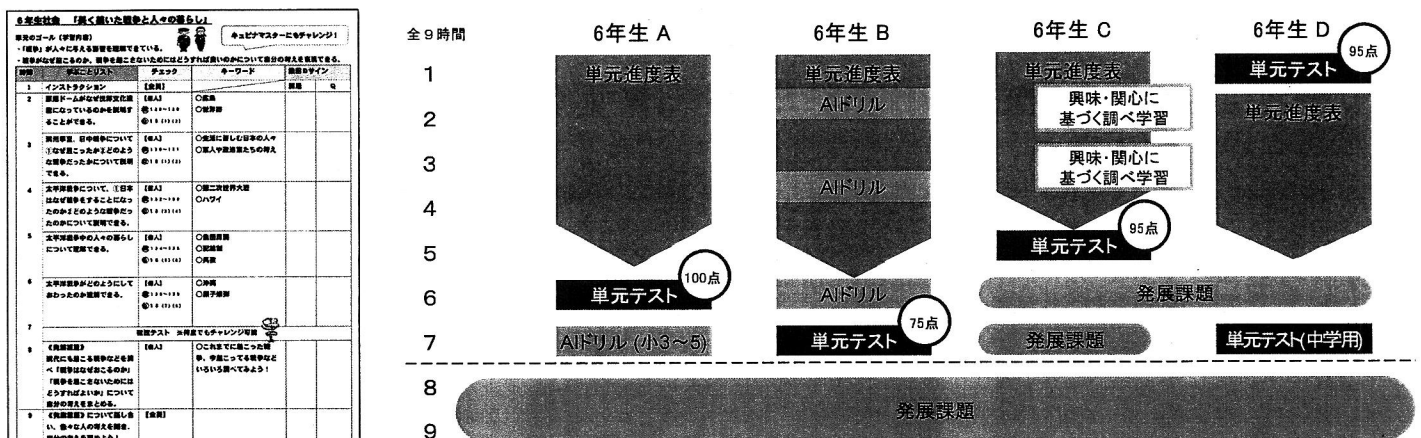
7

【参考】特色ある学びの効果（学習者主体の学び+学びのマネジメント）



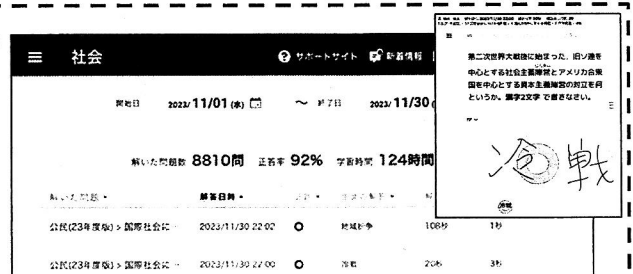
学び舎 ゆめの森
Manabiya Yumenomori

学習すべき内容を単元進行表で示しつつ、子どもたちが「誰と・どこで・何を・どのように学ぶか」自己決定して学ぶとともに、毎時の振り返りを徹底することで、主体的な学びによって知識習得時間を大幅に圧縮し深い学びを実現。



個別最適な学び+学びのマネジメントの効果（6年生D）

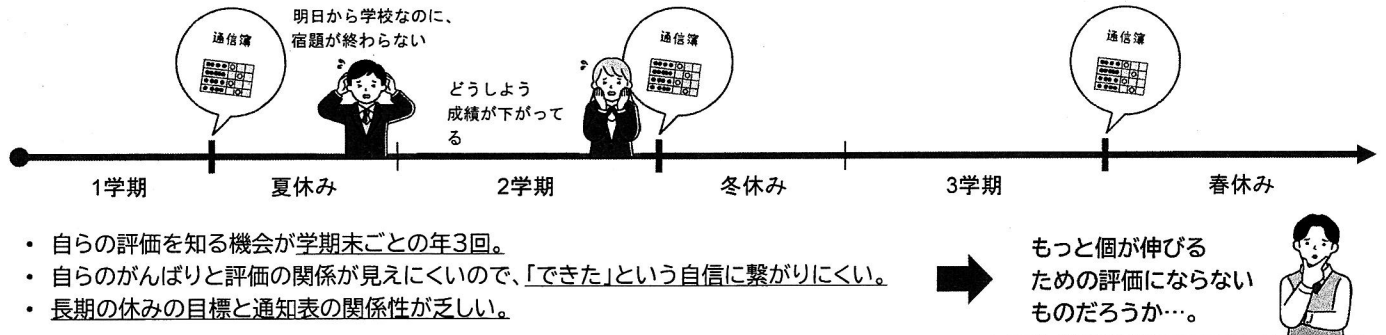
- ・ AIドリルも活用し習熟度に応じた学習に取り組む。
- ・ 得意な教科では自主的にさらに高度な学びに没頭し学びが加速。
- ・ ある6年生児童は社会科では既に中3の学習を終えた。11月の社会科学習時間124時間、解いた問題約9千、正答率92%



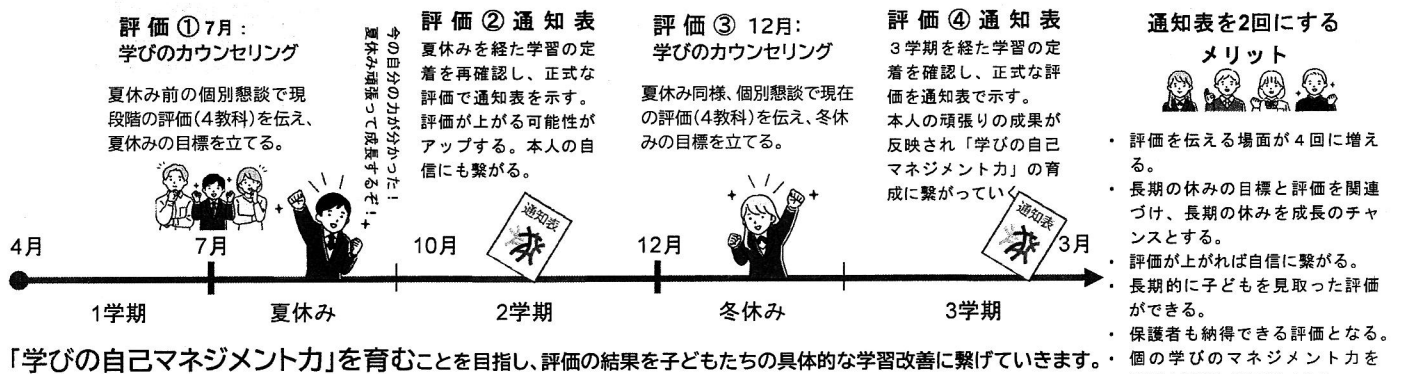
8

【参考】学びのマネジメント力を育む評価・長期休業中の宿題

これまでの一般的な評価



ゆめの森令和5年度～



特色ある学び：持続可能な地域の実現に挑戦する「未来デザインの時間」

自らの「興味」と「問い」を出発点として、大熊の豊かな人や歴史に向き合い、各教科の学習とも往還しながら、各自が大熊に貢献するプロジェクトを実践し、自らの生き方の創造に繋げる。

- AIドリルも活用して知識習得の時間を大幅に圧縮。
- 生み出された余裕時間も活用し、公民分野の学習やフィールドワーク等を出発点に、地域の課題を調査し、課題解決のプロジェクトを構想し実践（9年生）

	4月	5月	6月	7-8月	9月	10月	11月	12月	～	3月
総合学習	フィールドワーク	フィールドワーク	フィールドワーク	フィールドワーク	フィールドワーク	フィールドワーク	フィールドワーク	フィールドワーク	フィールドワーク	フィールドワーク
社会科	地域分野(1,2,3,4)	地域分野(1,2,3,4)	地域分野(1,2,3,4)	地域分野(1,2,3,4)	地域分野(1,2,3,4)	地域分野(1,2,3,4)	地域分野(1,2,3,4)	地域分野(1,2,3,4)	地域分野(1,2,3,4)	地域分野(1,2,3,4)
各教科										



社会科公民分野で学習する市場経済や生産活動の知識も活用し、町の特産物を生かした商品の開発、販売活動、決算等の一連の実践に取り組む。リヤカーを改造したカフェは技術家庭科の授業で制作。

特色ある学び：演劇教育～あたらしい大熊の物語の創造と共有



学び舎 ゆめの森
Manabiya Yumenomori

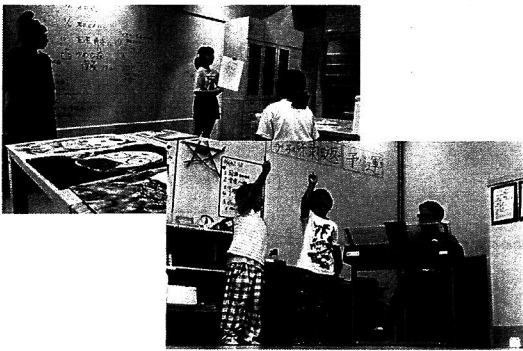
地域と向き合いながら演劇表現に取り組み、自己肯定感や表現力、協働力や創造力等の4 C※の力を磨くとともに、新しい大熊の物語を紡ぎだす。

※クリエイティブ、クリティカルシンキング、コミュニケーション、コラボレーション

- 専任アーティストが学校に常駐し、子供たち・アーティスト・教員が協働。大熊の地域や他者との出会いでの共感を出発点として演劇表現を創造。
- 子供たちがあたらしい大熊の物語を創造し、地域と共有。



当校落成式（2023年9月21日）で舞台を披露。
子供たちのパフォーミング・アーツで式典を包み込み船出を祝う。



音楽での合唱の技能や表現をみがく学習や、図工での衣装創作や案内チラシの作成等の学習



演劇「きおくの森」（2024年11月7日公演）地域の方等約200名が参観する中、子供たちが新たな大熊の物語を創造し、地域と共有。

11

特色ある学び：インクルーシブな学びのコミュニティ



学び舎 ゆめの森
Manabiya Yumenomori

DE&Iの視点ですべての児童生徒の個別の支援計画を活用した体制を構築することにより、唯一無二の存在である児童生徒ひとりひとりの力を最大限伸ばしていくインクルーシブな学び舎を実現。

- すべての子どもたちについて個別の支援計画を作成するとともに、毎週DE&Iコーディネーターを中心にミーティングを重ね、多面的に個の特性を捉え、共通理解を基盤とした支援に繋げていく。
- 毎学期本支援計画を活用しながら子どもたち・保護者・学校が対話を重ね、子どもたち自身の学びのマネジメントの力も育んでいく。

『私』がはじまる

学び舎 ゆめの森
Manabiya Yumenomori

年 名 前 (男・女)

学年	月	日	曜日
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20
21	22	23	24
25	26	27	28
29	30	31	

1学期 (1/1) ★がんばりたいこと

2学期 (2/1) ★がんばりたいこと

3学期 (3/1) ★がんばりたいこと

※各学年の目標や、児童生徒の自己申告、保護者の意向、学校の意向などを踏まえ、個別の支援計画を作成する。

※各学年の目標や、児童生徒の自己申告、保護者の意向、学校の意向などを踏まえ、個別の支援計画を作成する。

※各学年の目標や、児童生徒の自己申告、保護者の意向、学校の意向などを踏まえ、個別の支援計画を作成する。

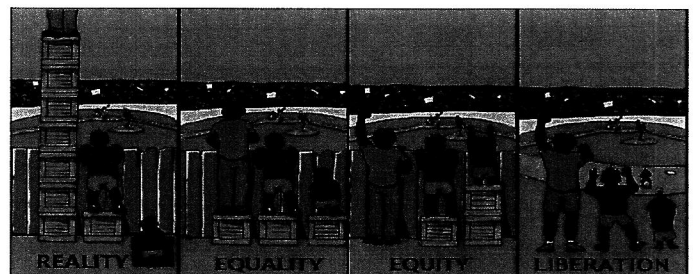
※各学年の目標や、児童生徒の自己申告、保護者の意向、学校の意向などを踏まえ、個別の支援計画を作成する。

個別の支援計画『私』がはじまる

ゆめの森の DE&I

「ダイバーシティ:多様性」「エクイティ:公正性」「インクルージョン:包摂性」の頭文字をとったこの言葉は、社会や組織のWell-beingを追求する上での重要な要件。

ゆめの森は、多様な個性や特性を持つ子どもたちの成長を支えていくために、合理的な配慮による支援をすることで(エクイティ)多様性を尊重し(ダイバーシティ)Well-beingを追求する包摂的な優しい場所(インクルージョン)となることを目指す。



現実 平等(公平) 公正 解放・包摂

12

特色ある学びを支える 「哲学する学び舎」を目指す教員研修

学校や授業の在り方について「こうあらねばならない」という自らの中での前提を疑い、地域・社会や子どもたちのあるべき未来について一人一人のデザイナーが探究し、徹底的に対話を重ねる「哲学する学び舎」としての姿を目指し、教員研修を重ねている。

- ・ 学校の狭い社会に閉じこもらずに実社会の課題や変化に目を向ける研修
- ・ 子どもたちの発達の特性や認知・学習の構造を科学的に捉えた授業の設計
- ・ 行事や授業の企画運営に際しての徹底的な対話を通じた、前例踏襲ではない日常の営み
- ・ デザイナーひとりひとりが「学び舎 ゆめの森」を自らの視点で語る言語化と思考の深化

地域課題理解研修



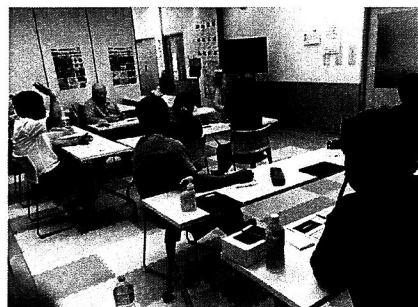
子どもたちが大熊をフィールドとした学びを展開する上で、12年ぶりの大熊町帰還に際して、デザイナーもフィールドワークを重ね地域と出会い、大熊の過去・現在・未来と向き合い、課題を見つめ思考を重ねている。

全国の関係者との対話



全国から視察に来訪する教育関係者や専門家との対話を重ね、各デザイナーが当校での自らの実践を言語化するとともに、全国各地への視察も行い、対話を通じて自らの取り組みを相対化し、日々の実践に生かしていく。

脳科学・行動科学研修



子供たちの特性を理解しながら、複雑な子供の発達や学びを見取り、子供たちの行動変容に繋げる環境を構成し支えるために、特別支援教育や脳科学・行動科学の専門家の方による教員研修を重ねている。

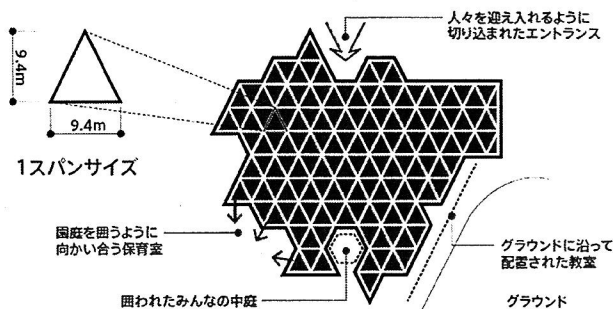
13

ゆめの森の学びを体現する校舎（2023年8月移転）

0～15歳が共に生活し学ぶ。子供と大人が交わる。すべての場所が創造的である。復興拠点となる大川原地区に子どもたちや地域住民も集うみんなの学び舎として竣工。

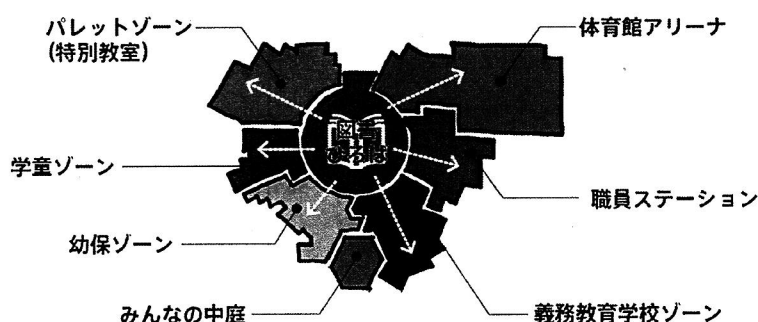
① 三角形フレームの組合わせで生まれる

自由な建物形状



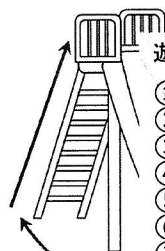
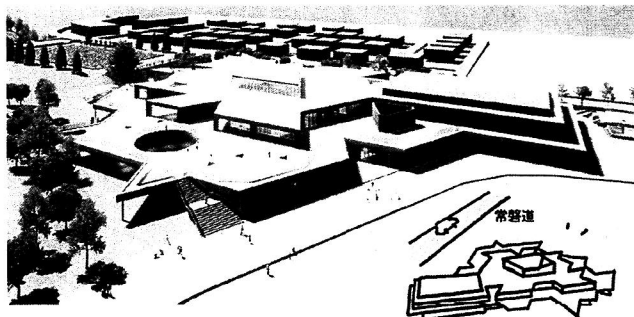
② 図書ひろばを中心に混ざり合う

放射状のゾーニング



③ 大熊町の新しいシンボルとなる

特徴的なシルエット



遊環構造 ～すぐれた遊具の要件～

- ① 循環機能があること
- ② その循環（道）が安全で変化に富んでいること
- ③ その中にシンボル性の高い空間、場があること
- ④ その循環にめまいを体験できる部分があること
- ⑤ 近道（ショートサーキット）ができること
- ⑥ 循環に広場、小さな広場などが取り付いていること
- ⑦ 全体がポーラスな空間で構成されていること

環境建築家・東京工業大学名誉教授 仙田 満（元日本建築家協会会長）

校舎全体が遊びと探究の舞台

14

学び舎 ゆめの森のうた (校歌)

作詞: 谷川俊太郎 作曲: 谷川賢作

ひとりっていいな ルンルン
みんなもいいな グングン
ひとりもいいけど でも やっぱりみんなといっしょがいいな

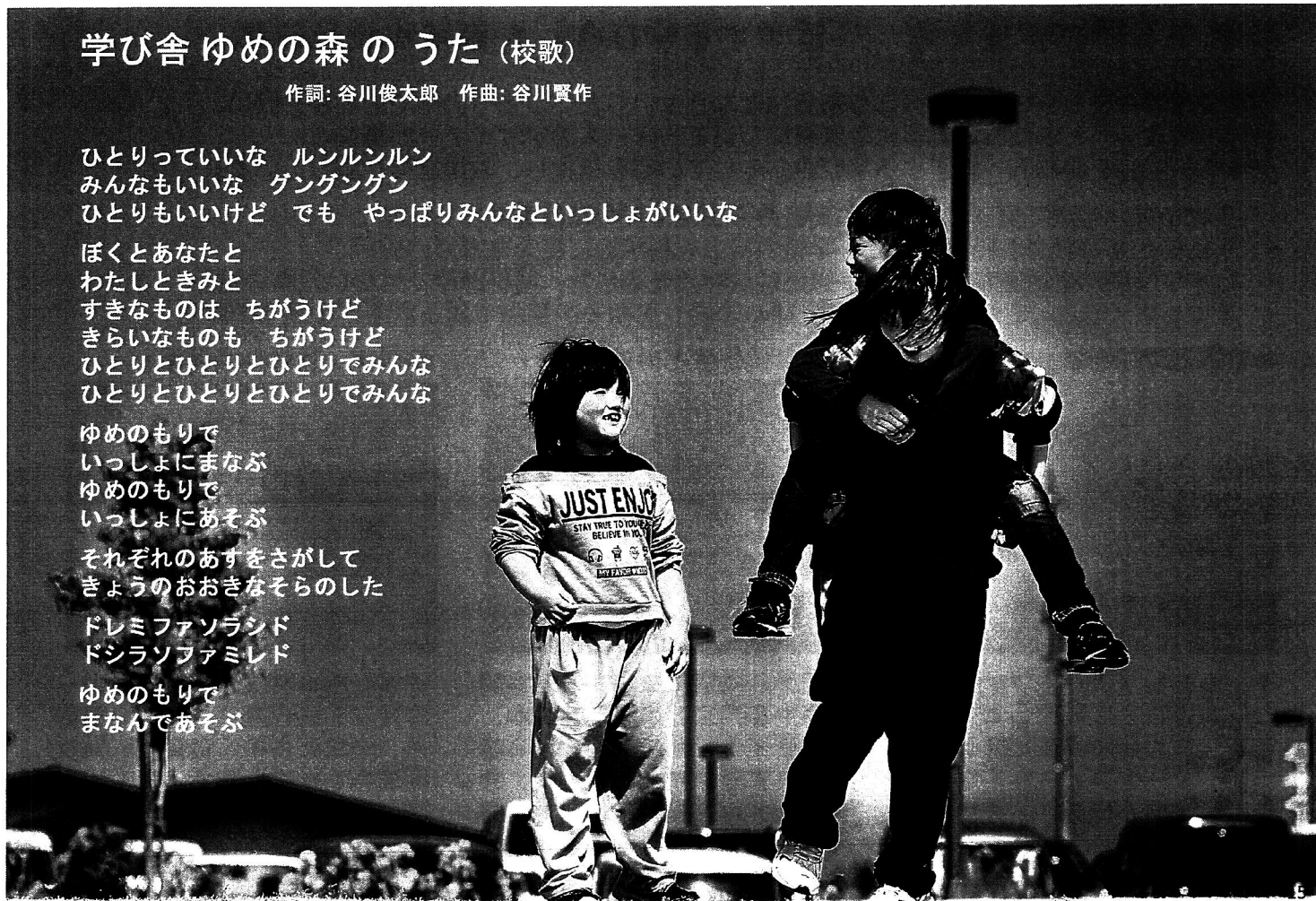
ぼくとあなたと
わたしときみと
好きなものは ちがうけど
きれいなものも ちがうけど
ひとりとひとりとひとりでみんな
ひとりとひとりとひとりでみんな

ゆめのもりで
いっしょにまなぶ
ゆめのもりで
いっしょにあそぶ

それぞれのあずさをさがして
きょうのおおきなそらのした

ドレミファソラド
ドシラソファミレド

ゆめのもりで
まなんであそぶ



Web版 ゆめのもり | 大熊町立 学び舎 ゆめの森 公式アカウント



学び舎 ゆめの森
Manabiya Yumenomori



新妻瑞海 デザイナー 佐久間佳代子 デザイナー

【取材#01】遊びに熱中する瞬間を、見逃したくない

認定こども園と義務教育学校が一体となり、0~15歳のシームレスな学びを目指す「学び舎 ゆめの森」。認...



認定こども園 渡辺 渡辺 マネージャー

【Interview #02】「幼児教育の都づくり」がはじまる(渡辺 渡辺)

認定こども園と義務教育学校が一体となり、0~15歳のシームレスな学びを目指す「学び舎 ゆめの森」。認...



大熊町立 半谷真由香 デザイナー

【取材#03】「ノーチャイム」からはじまった“私”の物語(半谷真由香)

認定こども園と義務教育学校が一体となり、0~15歳のシームレスな学びを目指す「学び舎 ゆめの森」。202...



大熊町立 増子啓信 GM

【取材#04】「こうでなければならぬ」からの解放(増子 啓信)

認定こども園と義務教育学校が一体となり、0~15歳のシームレスな学びを目指す「学び舎 ゆめの森」。ゆ...



大熊町立 南郷市兵 GM

【取材#05】理想の社会のモデル「学び舎 ゆめの森」(南郷 市兵)

認定こども園と義務教育学校が一体となり、0~15歳のシームレスな学びを目指す「学び舎 ゆめの森」。そ...



大熊町立 新妻一輝 デザイナー

【取材#06】「難しい」より「おもしろい」の方が勝つ(新妻一輝)

認定こども園と義務教育学校が一体となり、0~15歳のシームレスな学びを目指す「学び舎 ゆめの森」。今...

note



日々の遊び・学びの様子、デザイナーインタビュー 更新中!

「特集」民から学校をアップデートする

（司馬遼太郎）

挑戦する学校と私のはじまり

浜尾莉奈

2024年4月1日、私は福島県の小学校教員初任者として働き始めた。赴任校は福島県双葉郡大熊町の義務教育学校「大熊町立学び舎 ゆめの森」である。2011年の東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所の事故により、全町避難を強いられた大熊町は、避難先である会津若松市河東町での12年間の避難を経て、2023年4月より認定こども園・義務教育学校「大熊町立学び舎 ゆめの森」として大熊町に帰還した。12年間のなかで、大熊町の学校は、河東地域の人びとをはじめさまざまな方々

に支えられたことで、地域との繋がりの重要性を感じてきた。また、今ある当たり前を見つめ直すことで、これからの教育で大事にしていくべきことは何なのか、多くのことを見つめ直してきた。それは今のゆめの森の土台につながっている。

ゆめの森が目指すもの

「『わたし』を大事にし、『あなた』を大事にし、みんなで未来を紡ぎ出す。」というビジョンのもと、「生涯幼稚園児」熱中する探究者」としての資質能力を育成するため、「0歳からのシームレスな学び」の実現や、ICTを活用した個別最適な学びによって、自ら考えて自ら学ぶ「学びのマネジメント」の取り組み、あたらしい大熊の物語の創造と共有を目指した「演劇教育」など、特色ある教育を進めているが、なかでもICTを活用した個別最適な学びに力を入れている。自らのベースで学習を進める自由進度学習、時間割や夏休みの宿題を自分で決めるなど、一人ひとりが自らの学びのマネ

ジメントに取り組んでいる。そのようなゆめの森の教育の根底には、学校が魅力的であることがこれからの大熊町をつくることにつながるという「学校の地域貢献」という部分が深く関わっているように思う。

子どもは学びの主体

ゆめの森の教員として働き始めて約3カ月、右も左も分からずバタバタと走り続けているが、実際に大熊町でゆめの森で働くなかで、日々新しい刺激を受け、考えたり葛藤したりしている。

4月から実際に大熊町に毎朝通勤するなかで、未だ帰還困難区域であり、車での通行のみが認められている区間や、震災当時のまま荒れ果てた住宅の側を通る。当たり前に通る道だけれど、いつもやるせない思いやさまざまな感情がこみあげてくる。そして、「これからを担う子どもたちに関わることができる今の自分が、この大熊町でできることは何だろう」とふと考えることがある。

これからの社会は答えのない問いが溢れる社会だからこそ、これからを生きる子どもたちには、一人ひとりが自分の良さを活かしながら自ら考え、他者とともに新たなものごとを創造していける力が必要なのではないかと感じる。何も考えられず、ただ誰かの言いなりになるような人を育てていては、また同じ過ちを繰り返してしまうと思う。

だからこそ、今ゆめの森が目指すように一人ひとりの「好き」を大事にそれぞれに合わせた学びを行ない、子ども自ら学びの主体になれるような教育が必要なのだと思う。

しかしながら、実際に現場で働くなかでそれは簡単なことではないと感じる。従来の学校システムで学んできた自分自身の価値観との間で葛藤することもある。また、一人一人に合わせるということはつまり、それぞれをよく知っている必要がある、そこまで追いつけていない自分もいる。

けれど、それぞれに合わせた学びに

よって、子どもが学びの主体になる素晴らしい日も日々感じている。さまざまな人の考えや価値観をたくさん吸収して、考えることをやめないうようにしたい。

「自由」であることの意味

そして「自由」についても、この3カ月間とても考えを巡らせてきた。上述したように、ゆめの森では子どもたちが自ら考え自ら学ぶことを大切にしている。唯一無二の存在であるひとりひとりの「自由」を実現し追求している。そのような考え方は教員のあり方にも通じていて、ゆめの森は「こうでなければならぬ」という考え方が少ないように感じる。

しかしながら、「自由」「楽」では決してないのだということはこの3カ月間で身をもって感じた。子どもも教員も、「自由」であるからといってやらなくていい、考えなくてもいいのではなくて、「自由」であるからこそ、その活動をやることの意味や「そもそも」をきちんと考えて行動していかなければなら

ない、人から答えをもらうことはできないのだということに、だんだんと気がついてきた。

このような環境下にいることは今の自分にとっては決して楽なことではないが、これからの自分をつくる上で大事な核になるような気がしている。それは子どもたちにとっても同じことで、今、ゆめの森の「自由」な土壌で学ぶことは、子どもたちが将来、この地域や社会を自ら創造していけることにつながっているのではないかと思う。

私の目指す教員像

日々忙しく働くなかで見失いそうになるが、改めて自分はどんな教員でありたいかを思い出す。私は「教育を通して地域を支えることができる教員」になりたい。未だ何もできない初任者だけれど、忙しい毎日のなかでも周囲への感謝、そして初心を忘れず日々成長し続けられる自分でいたい。

● はまお・りな 大熊町立学び舎 ゆめの森教員